

時間外学習と評価の関連

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観および状況

本授業は，中学校技術科の免許を取得するための必修科目である。1年次後学期に開講している。木材に関する基礎知識と加工するための工具・機械の仕組みや使用方法などの教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。少しでも，専門教科になじむことや理解を高めるために，小テストを取り入れることによる時間外学習を促すことにしている。今年度は最終試験の前に単元終了時に4回の小テストを実施した。それらを含めて授業評価について報告する。

2. 授業評価方法

評価は科目独自のアンケートおよびディプロマ・ポリシー（以下DP）による授業評価を使用した。受講人数は7名（中等教育コース技術専攻3名，家政専攻3名，小学校サブコース3名）である。男女割合は男6名，女1名である。5名が肯定的に回答している。科目独自のアンケート質問内容を表1に示す。

表1 アンケート質問内容(科目独自)

設問番号	設問内容
(1)	教員の話し方や説明により，授業内容（概念，理論など）が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。（5段階評価）
(3)	授業を受講した目的が達成された
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を見につけることができた
(5)	技術専修の他の講義に関して興味・関心がわいてきた
(6)	木材・木材加工に対して興味・関心がわいた
(7)	実際に木材を加工して製品を作製してみたい
(8)	ミニ試験を行うことで，学習の復習するきっかけになりましたか？

3. 授業評価結果

科目独自アンケート回答結果を図1に示す。

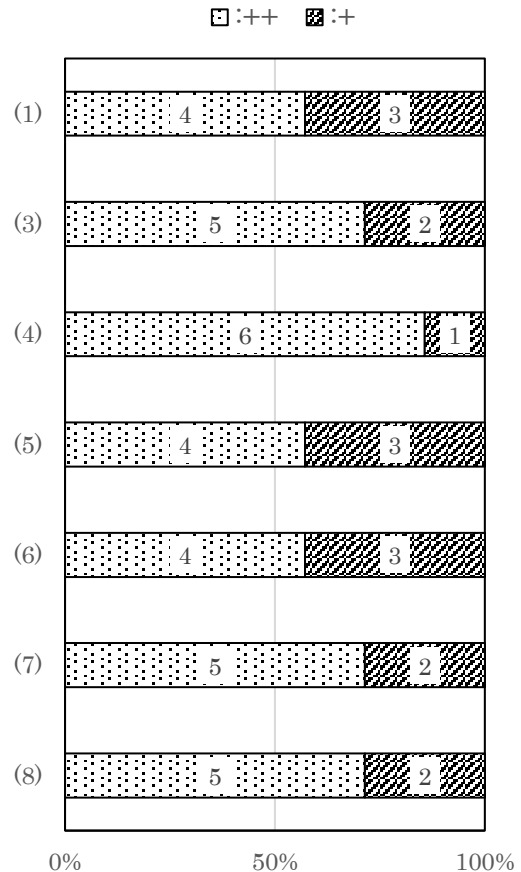


図2 科目独自アンケート結果

どの項目についてほぼ肯定的な回答を得た。設問(2)の難易度については，「適切」が3名，「やや難しい」が4名であった。

これまでと大きく異なるのは，平成28年度から設けられた中等教育コースの存在である。技術専攻の定員は3名である。入学から中学校技術科という縛りがあり，学生が在籍の意義を理解していることや，また，技術専攻以外の4名の学生も，自分の意志で受講をしている点が授業への興味・関心を高め，積極的に授業に取り組んだことが評価の向上につながったと考える。

授業内容の節目に4回の小テストを行った。

3回は前もって実施は予告している。得点率は第1回目が50~80%,第2回目が40~56%,第3回目は16~72%であった。第4回目は予告をせずに実施した。得点率は、8~35%であった。最終の評価は4回の小テストと期末試験で行った。期末試験の得点率は67~83%であった。まずまずの得点率である。

期末試験は4回の小テストの内容は必ず学習しておくように指示をしておいた効果があると考えられる。最終評価の内訳は秀:1名,優:3名,良:3名であった。

次に,DPのアンケート結果を図2に示す。

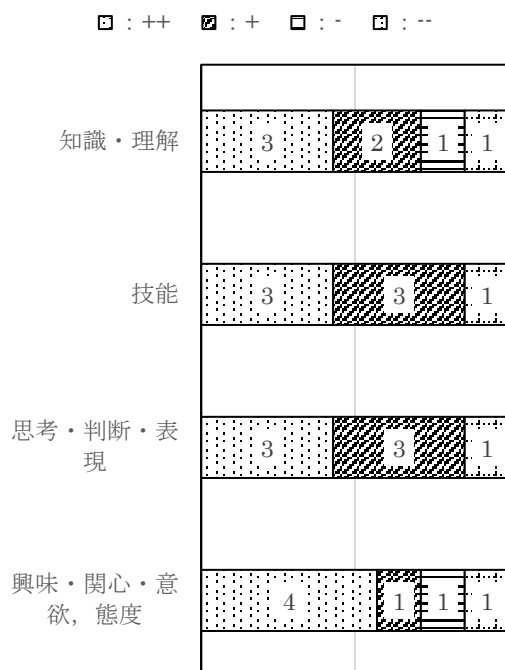


図2 DPについての回答結果

すべてのDPの平均は3.11であった。1名のみ全ての項目について否定的に回答している。

「知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と,得意とする分野の専門的知識を修得している」では,5名が肯定的に回答している。この教科の学習目的でもあるので,授業者としては目標達成ができていると考える。

「技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている」では,1名を除き肯定的に回答している。

「思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について,専門的な知見をもとに,その対応方を理論に基づいて総合的に考え,その過程や結果を適切に表現することができる」では,1名を除き肯定的に回答している。

「興味・関心・意欲,態度:教師としての使命感や責任感を持ち,自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ,自主的に社会に貢献しようとする」では,5名が肯定的に回答している。

教員側が本授業に意図していない評価項目に肯定的に回答している。感想として,1回生に対してアンケートを実施しているので,アンケートの問いに対する的確な判断ができていないように思われる。

「この授業で出された課題や予習・復習のために,授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。」の質問では0~6時間(平均:1.8時間),また,「この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で,この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。」の質問では0~6時間(平均:1.8時間)であった。評価と比較すると,授業時間外の学習をしている学生ほど評価は高くなる傾向が見られた。

おわりに

中等教育コースの設置は授業に取り組む姿勢に影響を与えているように考える。また,技術専攻以外の受講学生に関しても本人の受講意思であり,学習態度はよいものがある。

15回の授業に適宜小テストを取り入れることの効果が3年目にして表れた。他に授業に関しても,小テストや小レポートのようなものを取り入れて,授業の工夫を行っていきたい。